

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人本城学園 認定こども園 本城東幼稚園

1. 本園の教育目標

・地域の環境を活かして「元気・根気・勇氣」の素地を育むことを目的としている。

- 1, 心身の健康と善悪を始め、道徳性を育む
- 2, 基本的な生活習慣やしつけを基盤に、温かい人間関係を育む
- 3, 地域の人、自然、文化を大切にし心豊かな感性を育む。

2. 本年度の重点目標

- ① 異年齢の交流を通じた成長を育む
- ② 「好き」を見つける

3. 評価項目の取組と成果

評価 A: とても良い B: 良い C: 普通 D: 良くない (要検討)

自己評価結果の総括表

重点的に 取り組む目標 ①	評価項目	評価指標及び評価結果					総括 評価	意見・説明	次年度の改善策
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標			
異年齢の 交流を通じた 成長を育む	異年齢 交流を 通じた 遊びの 環境や 活動を 考える	4	クラスを越えて好きな人とあそび、一緒に製作や活動をする	3.3	4	お世話をする心地よさや遊び方の工夫や発展が生まれ、挑戦する気持ちが高まる	A	<幼稚園の部> ・異年齢交流は認定こども園ならではの、とても貴重な良い環境だと思う。 ・3学期に入り、特に年中・長児は小さな子に対して泣いていたら「どうしたの?」と声を掛けてあげたり、優しく接したりする場面が多く見ることができた。自分が教師や友達から優しく接してもらえた経験が次は友達へと繋がっていることが嬉しかった。 <保育の部> ・異年齢交流の結果、以上児への親しみや憧れの気持ちが芽生え、進級への期待や遊びの発展につながった。 ・異年齢の関わりが多く見られ、交流を通して自主的に小さい子へのお手伝いをしてくれるようになった。	<幼稚園の部> ・チャレンジタイムなど一緒に関われる時間は引き続き持ちながら異年齢同士でどのような交流やコミュニケーションが起きているのか丁寧に見守りつつ、関わりを深められるよう声掛けや援助を行っていきたい。 ・ママ・パパ先生のようにお兄ちゃんお姉ちゃん先生にまで年長さんがなれたら素敵だと思う。 <保育の部> ・みんなDAYをどのようなスパンで入れていくか担当が他クラスにアプローチしていく。 ・早い時期から少人数ずつクラスを越えて遊んだり、お世話をしたりする。
		3	みんなDAYでグループを作り、一緒にごはんを食べたり活動をしたりする		3	相手の思いを知り、受け入れる			
		2	興味のある遊びや道具と一緒に遊ぶ		2	安心感をもてるようになり、関わりが深まる			
		1	挨拶をする (心と心の握手)		1	相手に興味を持つ			
	対園全体 の把握 を主とし 教師の間 で働く	4	職員全体で情報を共有し、全園児の成長を皆で分かち合う	3.5	4	園の全てが自分事として感じられるようになり、信頼感や絆が深まる	A	<幼稚園の部> ・1学期は自分のクラスの実態を知ることによって精一杯でしたが、東会議や終礼などで情報を共有することで、全体を共通理解することができた。対話を意識しながら困っていることや子どもたちの嬉しいことなどを伝え、思いも共有することが出来た。 <保育の部> ・クラス会議、終礼、東会議などで子どもたちの姿・クラスの様子など園全体で把握できていると思う。 ・他クラスと関わっていく中で、教師同士で子どもの様子や成長などを伝え合う対話が増えたと思う。	<幼稚園の部> ・子どもたちがお世話したり関わりをもって遊ぶ機会を増やし、その中で自分自身も積極的に交流をもち、未満児クラスの子どもの実態も知れるようになった。 ・相手を尊重していくことで安心して自分の考えを伝えられることから、今後も互いを尊重していきながら子どもにとってどうしていくのが望ましいかを言葉で伝え合って質の向上を目指していく。 <保育の部> ・保護者からの情報は申し送りに記入していく。また、保護者からの連絡アプリを必ず読むようにすることで情報共有に繋がると思う。
		3	クラス同士で交流をもち、他のクラスの実態を知る		3	他クラスの事にも意識を向け、考えられるようになる			
		2	困っていること、悩み、嬉しいことなどの対話をする		2	手立てや見通しが持て、知識が深まることで視野が広がる			
		1	挨拶をする		1	子どもの実態を知る			
							総括 評価	意見・説明	次年度の改善策

重点的に 取り組む目標 ②	評価項目	評価指標及び評価結果					総括 評価	意見・説明	次年度の改善策	
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標				成果 結果
「好き」を見つける	人への 関心を 深め、関 わりを持 つことを 楽しむ	4	粘り強く関わり、互いをリスペクトし、 お互いの良さを知り、それを高め合い 共に成長する	3.3	4	質の向上へと繋がる	3.2	B	<幼稚園の部> ・1学期当初では、クラスで異年齢での関わりでも「一緒にいる楽し さ」を十分に味わう姿が見られていた。関わりを重ねるにつれて友達 へのリスペクトの言葉「すごいね」「すてきだね」などが増え、相手 の思いに合わせて役割を決めたり譲りあったりする姿が増えてきたよ うに思う。 <保育の部> ・いろいろな友達や先生との関わりを持つことで人と遊ぶ、人に見ても らう、人に話したいという気持ちが育ったと思う。 ・1つ1つの行事や活動に対して教師同士が丸となって進めていく中 で、出来ることを高め、出来ない所も協力し合うなど、PDCAを 行っていることで質が高まっていると思う。	<幼稚園の部> ・笑顔でという所を園のスローガンのようにして、 キーワードを多く周知していけば、園全体でもっと 対話が広がり信頼関係につながっていくと思うので、 次年度も意識していこうと思う。 ・グリーンカード活動の中で、特に「を友達のすて きなところ」を意識できていたので引き続きグリー ンカードを用いながら友達への関心を深めていき たい。 <保育の部> ・経験年数や年齢など様々な職員と関係を築いてい くことで円滑で充実した保育が行えることを学んだ ので、周囲との関係づくりやコミュニケーションを 大切にしていきたいと思う。
		3	人と一緒にすることが楽しくなる (心地良くなる)		3	積極的になり関わりたくなる				
		2	対話をし、人の良いところを見つける		2	信頼関係が生まれる				
		1	笑顔で人とそばにいる		1	安心感が育まれる				
	居心地 のよい 場所作 り	4	感性が豊かになり、自分のやりたいこ と、好きなことを伝え合う	3.4	4	アイデアが湧いて、好きを磨き、積極的 になって自己肯定感が高まり次に何か挑戦し ていく	3.2	B	<幼稚園の部> ・遊びに夢中になり「次の日も続けたい」「続きをしたい」とどんどん発 展していったり、必要なものを自ら持ってきて工夫したりする姿がたく さん見られた。一つの遊びが大好きで心楽しんでいる様子が伺えた。 ・子どもたちの様子を見守りながら行動していく中で、いろいろなこと が見えてくるので、クラス間で共有したり、伝え合ったりしてよりよい環 境になると思う。 <保育の部> ・子どもたちも教師も自分の気持ちを言える安心した環境があるので、の びのびと創造性を高められていると思う。 ・子どもの好きなもの、安心する場所を見つけれられるように取り組んだこ とで教師は保育が楽しくなり、子どもたち一人一人への理解が高まり、 子どもたちと喜びや満足感を共有することが出来た。	<幼稚園の部> ・次年度も、もっと自分の好き、人の好きを見つ けてよりよい園にしていきたい。 ・アドバイスする自分の考えが固まってしまっ ているときがあるので、自分自身もバージョン アップが必要だと思う。 ・好きを見つける場所を設定したら係り・担当を 決め目標を持って取り組むことで居心地よい 環境を広げていけると考える。 <保育の部> ・得意なことを活かして笑顔が増える場所を作る。 ・一人一人の心の安定が今の課題であると感じる。 ・揺らぎの時期なので、その時、その子の様子に 合わせたケアや落ち着ける環境・夢中になれる 遊びなどの工夫が必要だと思う。
		3	自分でそのことを試行錯誤しながら工 夫して楽しむ		3	達成感を味わい、自信につながる				
		2	好きなもの、こと、場所で夢中に なって過ごす		2	心が落ち着き、安定する				
		1	お気に入りの場所がある（見つける）		1	幼稚園に来ることが楽しみになる				

学校関係者評価委員会の評価

全職員が一生懸命に保育にあたっていることや、園児・保護者とより良い関係性であるということは、園児の笑顔、保護者のアンケートからよく分かりました。パパ・ママ先生の実践は保護者と園の双方にとって有意義であることや異年齢交流の取り組みは素晴らしいと感じました。一つ一つの行事内容や重点的に取り組む目標が分かりやすく教師が把握できていることが伺えました。本城東幼稚園の子ども達はいつも笑顔でいるので、全職員が、どれほど素晴らしい保育をされているか良くわかりました。このまま子ども達の笑顔と職員の皆さんの笑顔の花が咲く幼稚園であって欲しいと願っています。

今日は、中学校の卒業式でしたが、子ども心に通っていた園児が保護者と「中学校を卒業しました」と幼稚園を訪れる姿は本城東幼稚園で過ごした思い出がどれほど素晴らしい、楽しいものであったかと想像できます。

学校関係者評価委員
 学校関係者評価委員
 学校関係者評価委員
 学校関係者評価委員

委員会実施日 令和8年3月17日